

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		5	t-CO <sub>2</sub>
① （温を除く） 二酸化炭素換算排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		5

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度	
			目標排出量	目標削減率
温室効果ガス 総排出量		t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	%

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度	
			目標排出量	目標削減率
原単位当たりの 排出量	0.00001022	t-CO <sub>2</sub> / [kg/m <sup>2</sup> ・人+台]	0.00001022	t-CO <sub>2</sub> / [kg/m <sup>2</sup> ・人+台]
			0.0	%

（2）目標設定の考え方

C02フリー契約に変更した事により排出量は削減できております。  
非常用発電機の無負荷点検、年に一度の電力設備の法定点検で燃料A重油は使用しなければならず、その分の排出量は削減が困難です。発熱量係数が変更となり、原油換算が800kLを下回りましたが、省エネを継続して3年間超えないように致します。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無人時の消灯を徹底する。</li> <li>・反射板を定期的に清掃するなどし、最小限の照明で明るさを確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業の無いフロアについては、照明の消灯を徹底。</li> <li>・巡回による照明消し忘れの防止。</li> </ul>
省エネルギー・省資源の行動実施・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷暖房温度を適正化する。</li> <li>・カーテンやブラインドを活用し冷暖房効果を高める。</li> </ul>	左記取組み内容を継続実施。
省エネルギー・省資源の行動実践・廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物量の抑制のため、リサイクル品の分別を行う。</li> </ul>	左記取組み内容を継続実施。

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	100 %

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

引き続きCO2フリー契約を継続

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組